

## 成育医療等協議会資料

# 成育医療等基本方針の指標の考え方

2021.12.24

*University of Yamanashi*



山縣然太郎

山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座

厚生労働科学研究費補助金(2021-2023年)

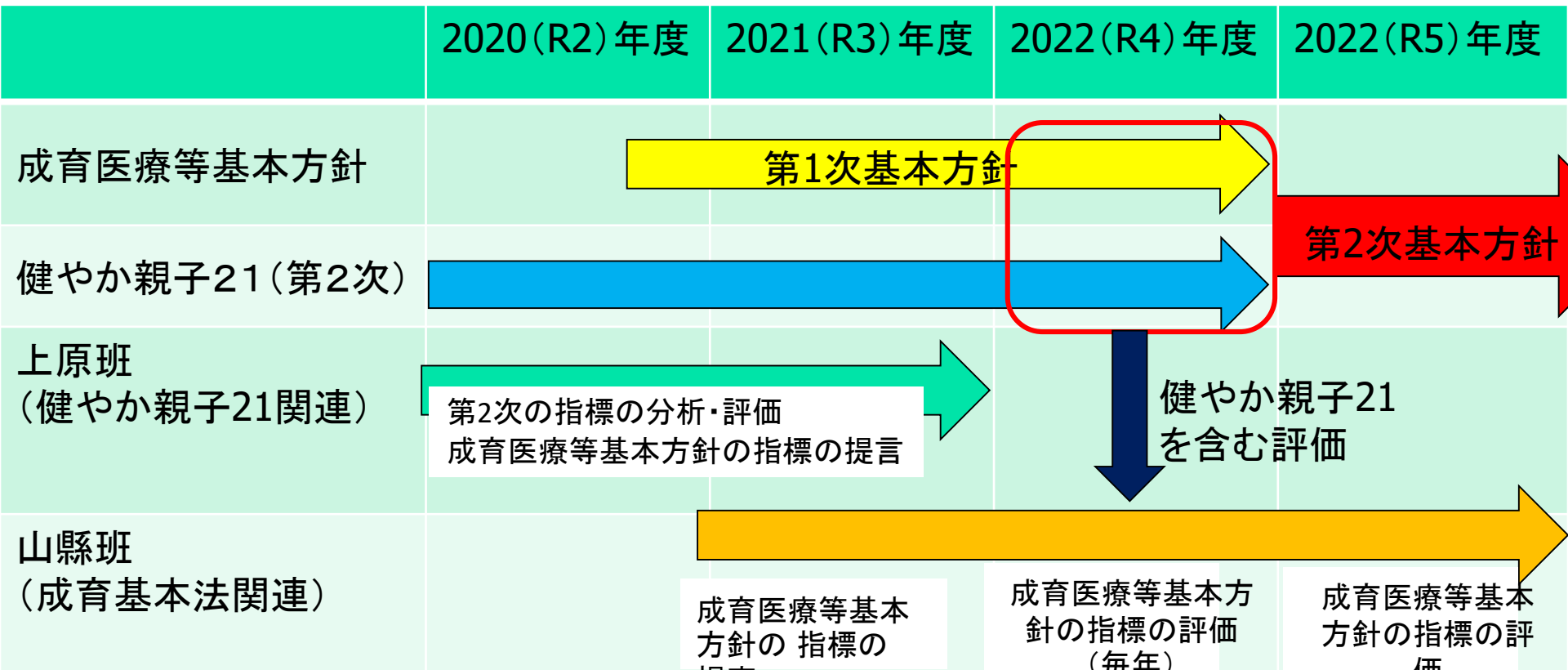
「成育基本法を地域格差なく継続的に社会実装するための研究」  
研究代表者

# 成育医療等基本方針と健やか親子21

University of  
Yamanashi



- 健やか親子21は、厚労科研で分析・評価をしてきた。
- 健やか親子21の評価軸は、厚労科研で提案し、検討会を設置して策定してきた。
- 成育医療等基本方針についても、厚労科研において指標の提案を行い、検討会で承認を得る。
- 健やか親子21は、2022年度から成育医療等基本方針の中で評価する



# 成育基本法の規定に基づく施策の実施・公表

University of  
Yamanashi



成育基本法において、以下二つの条文が政府に施策の公表等の義務づけを行っている。

## 第10条

政府は、**毎年一回**、成育過程にある者等の状況及び成育医療等の提供に関する施策の実施の状況を**公表**しなければならない。

## 第11条第6項

政府は、**適時に**、成育医療等基本方針に基づく施策の実施の状況について、**評価**を行わなければならない。

# 成育医療等基本方針における指標の設定

- 上原班(母子保健情報を活用した「健やか親子21(第2次)」の推進に向けた研究(19DA1003))(2019-2021)
  - 健やか親子21(第2次)最終評価
  - 成育基本法における保健領域(健やか親子21)の指標の設定
  - 新型コロナ禍における子どもの発達に関する研究
- 山縣班(成育基本法を地域格差なく継続的に社会実装するための研究(21DA0201))(2121-2123)
  - 第1期本基本方針に基づいた施策の評価を行うための指標の作成及び目標値の設定(2021年度)
  - 指標、実施状況を把握するリアルタイムモニタリングシステムの構築(2021年度～2022年度)
  - 次期成育基本方針の作成に向けた検討(2021年度～2022年度前半)

## 研究計画

目的: 次期成育基本方針の作成の基本情報を  
成育医療等協議会に提供すること

2021年度

① 本基本方針に基づいた  
施策の評価を行うための  
指標の作成及び目標値の  
設定(2021年度)

② 指標、実施状況を  
把握するリアルタイム  
モニタリングシステム  
の構築(2023年度ま  
で)

2022年度

各指標のロジック  
モデルの提案: 現  
状、課題、指標、  
事業、アウトプット  
、アウトカム、目標  
達成の有無(イン  
パクト)の見える化

④ 次期成育基本  
方針の作成に向  
けた検討

2023年度

③ 上記システムを用  
いた指標及び施策  
の実施状況のモニタ  
リング(2023年度)

## 期待される効果

- (1) ロジックモデルによる科学的根拠に基づく事業展開
- (2) 指標のリアルタイムのモニタリングシステムによる実態の早期把握と早期対策
- (3) 成育医療関連の多職種連携の促進

# 指標設定の基本的な考え方(1/2)

## 1. 前提

- 第1次基本方針(2022年度(令和4年度)まで)の指標とする
- 基本方針の記載をもとに指標を設定する
- 保健領域は健やか親子21(第2次)の指標を基に設定する
- 医療分野は新たに指標を検討する

## 2. アウトカム指標を設定する

- アウトカム指標(保健統計、QOL、健康行動)を設定する
- アウトプット指標(環境整備、取り組み)についてはロジックモデルの中で検討する

# 指標設定の基本的な考え方(2/2)

## 3. 既存統計を活用する

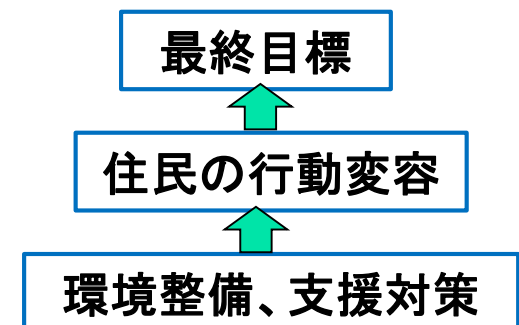
- 人口動態統計や学校保健統計のような既存統計を活用する

## 4. ロジックモデルを検討する

- インプット→プロセス→アウトプット→アウトカムの設定を行うことで施策と成果の紐づけをめざす
- インプット: 予算、人材 ・プロセス: 人材育成、研修会、検討会等
- アウトプット: 施策 ・アウトカム: 成果(行動変容、保健統計)

# 健やか親子21(第2次)の5課題と52指標

- 3つの基盤課題(⇒母子保健のあり方)
  - 基盤課題A:切れ目ない周産期・乳幼児保健体制の充実(16)
  - 基盤課題B:学童期・思春期から成人期に向けた保健対策(11)
  - 基盤課題C:子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり(8)
- 2つの重点課題(⇒虐待対策と発達障害)
  - 重点課題1:「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援(5)
  - 重点課題2:妊娠期からの児童虐待防止対策(12)
- 指標
  - 健康水準の指標 16 (最終目標の指標)
  - 健康行動の指標 18 (住民の行動の指標)
  - 環境整備の指標 18 (行政等の指標)
  - (参考指標 28)



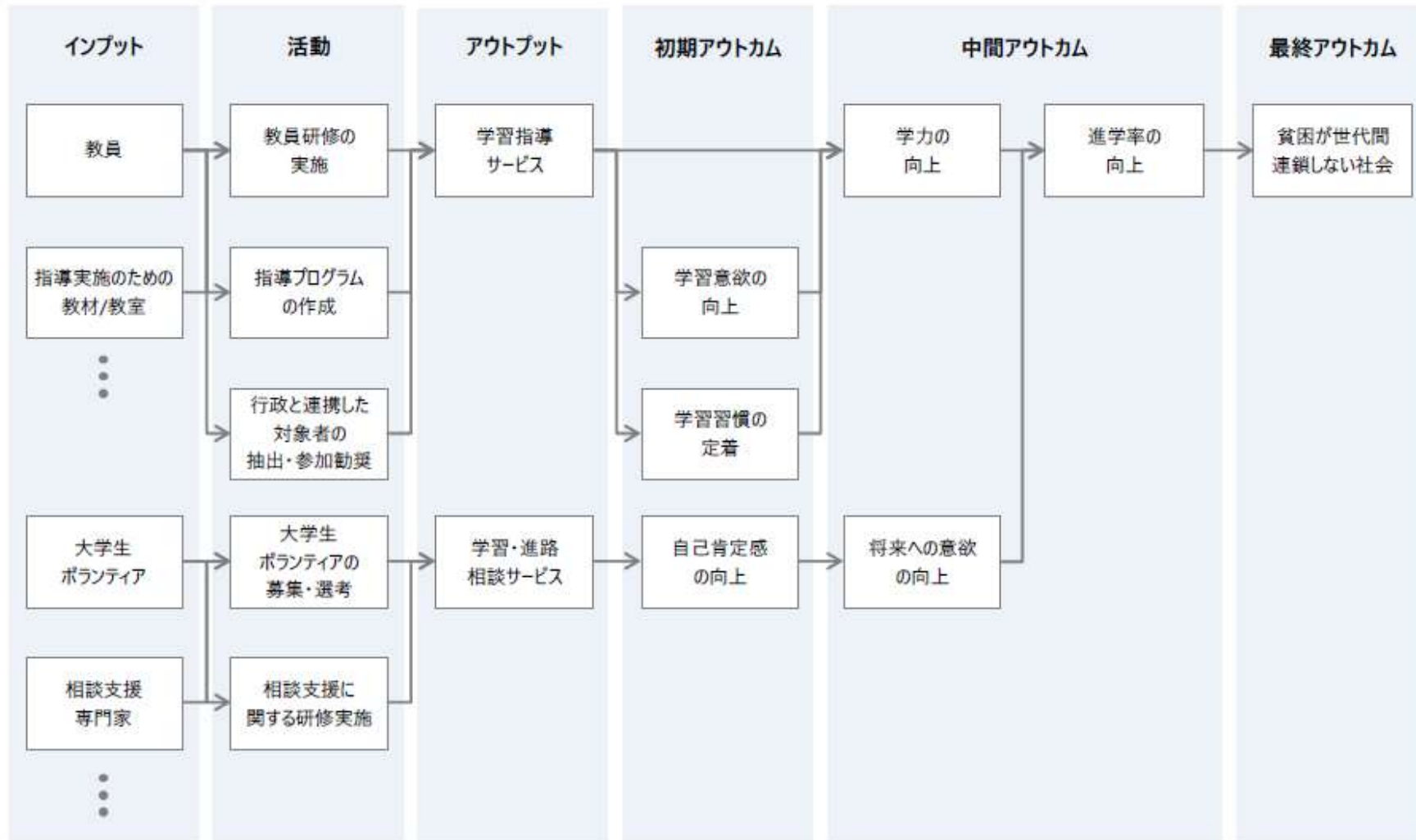


# 指標設定の課題と検討結果

- 基本方針の記載が「アウトプット指標」が多い  
⇒アウトプット(実施)とアウトカム(成果)の紐づけを検討
- 的確なアウトカム指標が既存情報にない場合  
⇒法律の核である「連携体制の構築と運用」の指標等は次期の課題
- 不登校、長期欠席児童生徒等に関連する保健の指標  
⇒活用できる適切な既存のデータがないため、次期の課題
- 目標値  
⇒評価までの期間が短いため、評価は推移に基づいておこなう  
(目標値を設定しない)
- ロジックモデル  
⇒研究班が今後プロトタイプを示し、自治体等で実情に合わせて作成してもらう

# ロジックモデルの作成例 (日本財団 ロジックモデル作成ガイドより)

## 1. 学習支援事業におけるロジックモデルの例



出所：G8 社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会（2016）「社会的インパクト評価ツールセット：教育」を参考に作成